

1 承認要件

(1) 紹介率及び逆紹介率

- ア) 紹介率 80%以上 20 病院 (52.7%)
 イ) 紹介率 65%以上かつ逆紹介率 40%以上 11 病院 (28.9%)
 ウ) 紹介率 50%以上かつ逆紹介率 70%以上 7 病院 (18.4%)

(2) 共同利用の実績

ア) 円滑な実施のための体制確保

38の地域医療支援病院において、共同利用に関する運営規定が定められ、共同利用を行う医療機関の登録制度が設けられるとともに情報の提供、連絡、調整について担当者が決められており、円滑な実施のための体制確保が図られている。

イ) 共同利用の設備、器械等

主にMRI、CT等の放射線機器、臨床検査、内視鏡検査、手術室となっており、病院の施設の全てを共同利用としている病院は3病院となっている。

ウ) 共同利用に関する情報提供

当該病院のホームページ、広報誌、研修会等を利用して情報を提供している。

エ) 共同利用のための専用病床

- ① 10床未満 16 病院 (42.1%) (5床 14 病院 (87.5%))
 ② 10床以上～50床未満 15 病院 (39.5%) (10床 8 病院 (53.3%))
 ③ 50床以上 7 病院 (18.4%) (343床 田主丸中央病院)

オ) 共同利用を行った医療機関延べ数

- ① 1,000件未満 9 病院 (23.7%)
 ② 1,000件以上～5,000件未満 21 病院 (55.3%)
 ③ 5,000件以上～10,000件未満 6 病院 (15.8%)
 ④ 10,000件以上 2 病院 (5.2%)

(17,025 件 福岡市立こども病院)

カ) 登録医療機関の数

- ① 100未満 12 病院 (31.6%)
 ② 100以上～500未満 22 病院 (57.9%)
 ③ 500以上 4 病院 (10.5%) (738 医療機関 福岡総合病院)

(3) 救急医療の提供の実績

ア) 救急搬送患者数÷救急医療圏人口×1,000≥2 又は イ) 当該医療機関における年間の救急搬送患者の受入数≥1,000 を満たしている病院 37 病院 (97.4%)

ア) 又はイ) を満たしていない病院 1 病院 (2.6%) (糸島医師会病院)

ウ) 救急搬送受入患者数

- ① 1,000人未満 2 病院 (5.2%)
 ② 1,000人以上～5,000人未満 27 病院 (71.1%)
 ③ 5,000人以上～10,000人未満 7 病院 (18.4%)
 ④ 10,000人以上 2 病院 (5.2%) (10,384 人 聖マリア病院)

(4) 地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実施の状況

以下のア) からエ) までの要件については、各地域医療支援病院において遵守されている。

ア) 必要な図書等を整備し、研修を定期的に行う体制が整備されていること

イ) 研修プログラムを作成していること

ウ) 教育責任者及び研修委員会が設置されていること

エ) 研修のための施設及び設備を有していること

また、要件のオ) 年間12回以上の研修の主催等については以下のとおり。

オ) 年間12回以上の研修

① 12回以上～50回未満 23病院 (60.5%)

② 50回以上 15病院 (39.5%) (173回 福岡総合病院)

研修の参加者については、院内及び院外の医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士等の医療従事者に対して実施されており、研修会の内容としては、地域における疾患等に関するカンファレンスが最も多い。

(5) 地域医療支援病院が設置する委員会の開催の実績

委員会については原則、四半期に1回(4回/年)程度開催するよう国の通知で定められている。

① 承認前のため未開催 2病院 (5.2%)

② 1回 2病院 (5.2%)

③ 2～3回 10病院 (26.4%)

④ 4回 24病院 (63.2%)

なお、①～③の14病院については、平成30年度の開催見込み回数が平成29年度実績を上回るよう取り組んでいることを確認した。

(6) 患者相談の実績

国が定める患者からの相談に適切に応じる体制を確保することについては、各地域医療支援病院において確保されている。

① 1,000件未満 2病院 (5.2%)

② 1,000件以上～10,000件未満 24病院 (63.2%)

③ 10,000件以上 12病院 (31.6%) (37,305件 福岡徳洲会病院)

2 任意的に求められる取り組み

(1) 病院の機能に関する第三者評価

① (公財)日本医療機能評価機構による認定 29病院 (76.4%)

② ISO9001等の取得 2病院 (5.2%)

③ なし 7病院 (18.4%)

(2) 果たしている役割に関する情報発信

ア ICTを用いた病診連携等

① あり 35病院 (92.1%) ② なし 3病院 (7.9%)

イ とびうめネットへの参加の記述について

① あり 25病院 (65.8%) ② なし 13病院 (34.2%)

(3) 地域連携を促進するための取り組み

① あり 36病院 (94.8%) ② なし 2病院 (5.2%)

(4) その他(地域の看護学校実習生に係る受け入れ状況)

① あり 37病院 (97.4%) ② なし 1病院 (2.6%)

平成29年度地域医療支援病院業務報告(承認要件)

業務に関する報告事項				①紹介率及び逆紹介率					②共同利用の実績					③救急医療の提供の実績	④地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実施の状況				⑤地域医療支援病院が設置する委員会の開催の実績	⑥患者相談の実績
医療圏	No.	地域医療支援病院名 (承認年月日)	病床数 (床)	◎紹介率及び逆紹介率に係る要件 以下のいずれかを満たす必要あり		紹介患者の 数(人)	初診患者の 数(人)	逆紹介患者 数(人)	共同利用 を行った 医療機関 延べ数 (件)	共同利用の内容	開放 病床数 (床)	登録医 療機関 の数	救急搬送受入患者数 (人)	医師、その他の医療従事者(看護 師・薬剤師・技師等)を対象 にしたもの			医師以外の参加職種	研修会の内容	委員会の開 催実績(回) (原則、四 半期に1回 程度)	相談数 (件)
				紹介率 (%)	逆紹介率 (%)									回数 (回)	参加者 (人)	うち院外 (人)				
福岡・糸島 (11病院)	1	糸島医師会病院 (H15. 3. 13)	一般150	93.8	132.0	3,736	3,982	5,258	4,333	MRI室、CT室、内視鏡室、心電図室、地域医療連携室、図書室、研究室 等	150	79	ア)0.30 イ)505	17	1,584	352	看護師、保健師、薬剤師、リハビリセラピスト、検査技師、放射線技師、栄養士、MSW、消防署員 等	・病診連携カンファレンス ・新・教育セミナーカンファレンス ・医療従事者研修会 他	2	847
	2	独立行政法人国立病院機構九州医療センター (H16. 2. 27)	一般650 精神 50 感染症2	97.6	99.7	13,936	14,278	14,247	3,942	建物全部、CT、MRI、RI	77	668	3,042	145	7,852	4,535	看護師、コメディカル、事務職	・歯科講演会 ・福岡リウマチ懇談会 ・看護実践能力開発講座 他	3	3,483
	3	公立学校共済組合九州中央病院 (H18. 4. 1)	一般330	75.2	74.6	11,657	15,490	11,559	1,719	病院建物全部(駐車場含)、CT2台、MRI2台、RI、放射線治療、超音波検査、骨密度測定、ダットスキャン、内視鏡検査、生理機能検査 等	6	355	5,064	80	3,034	2,250	看護師、検査技師、救急救命士、PT、OT、管理栄養士 等	・胃腸カンファレンス ・SMILEネットワーク ・救急医療勉強会 他	2	9,165
	4	福岡市立子ども病院 (H19. 9. 1)	一般239	87.9	65.8	7,418	8,437	5,556	17,025	化学検査室、細菌検査室、病理検査室、病理解剖室、生理検査室、放射線検査室、(MRI、CT、X線、透視、骨密度測定装置、心血管造影)、内視鏡検査室、手術室、集中治療室、病床239床	239	175	1,348	46	1,865	1,049	看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、MSW、臨床心理士 等	・子ども病院カンファレンス ・福岡小児神経研究会 ・子ども病院・連携病院周産期症例検討会 他	2	8,600
	5	国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 (H21. 4. 1)	一般468	86.2	114.4	10,748	12,459	14,258	687	CT、MRI、胸部X線撮影装置、核医学診断装置、超音波・脳波・内視鏡検査装置、手術室	20	488	2,885	26	1,564	691	看護師、薬剤師、放射線技師、MSW、がん医療従事者 等	・医療スタッフのためのがん診療セミナー ・天神FPD研究会 ・地域医療連携の会 他	4	2,688
	6	福岡県済生会福岡総合病院 (H22. 4. 1)	一般380	97.5	115.1	16,683	17,106	19,701	15,605	開放病床、手術室、内視鏡検査室、320列CT撮影、80列CT撮影、MRI撮影、一般撮影、放射線治療装置、マンモグラフィ撮影、腹部超音波検査、心臓超音波検査、トレッドミル検査、心臓カテーテル検査、腹部血管撮影、頭部血管撮影	10	738	4,160	173	6,926	2,736	看護師、薬剤師、救急隊、放射線技師、検査技師、薬剤師、栄養士、MSW等	・救急救命カンファ ・天神メディカルセミナー ・地域連携フォーラム 他	1	17,090
	7	福岡市民病院 (H23. 4. 1)	一般200 感染症4	86.4	151.1	4,634	5,358	8,099	1,645	開放病床、手術室、内視鏡検査(上部)、64列CT撮影、3.0テスラMRI撮影、マンモグラフィ撮影、一般撮影、腹部超音波検査、心臓超音波検査、心臓カテーテル検査、腹部血管造影検査、集中治療室	10	215	3,011	75	3,023	14,222	看護師、検査技師、放射線技師、薬剤師、PT、OT、ST、栄養士、MSW、救急隊員 等	・福岡東部オープンカンファレンス ・福岡脳神経疾患研究会 ・福岡脳卒中救急カンファレンス 他	4	16,947
	8	福岡赤十字病院 (H23. 4. 1)	一般509 感染症2	77.6	88.4	14,273	18,381	16,264	2,193	手術における各手術機器、放射線施設における各医療機器(X線撮影装置、CT、MR、骨シンチ)、内視鏡検査室(胃カメラ、大腸ファイバー)、生理機能検査室(エコー、心電図機器等)、病床	5	367	5,512	50	2,154	1,288	看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、作業療法士、MSW、社会福祉士、救急隊 等	・サザンイレブンカンファレンス ・福岡赤十字病院もつとクロス救急セミナー ・南区糖尿病を考える会 他	3	10,850
	9	社会医療法人財団白十字会 白十字病院 (H24. 7. 27)	一般411 療養55	101.5	72.6	6,035	5,943	4,318	7,378	高度医療機器(MRI、CT、RI)、開放型病床、手術室、講義室	30	226	4,161	49	1,540	886	看護師、MSW、薬剤師、管理栄養士、介護士、臨床検査技師、OT、PT、ST、MSW、救急隊 等	・白十字病院定期勉強会 ・福岡西部地区感染対策ネットワー ク ・救急医療研修会 他	4	2,215
	10	福岡記念病院 (H26. 12. 5)	一般239	71.9	91.2	4,246	5,903	5,387	6,123	病院全体	239	153	5,445	49	3,012	1,550	看護師、PT、ST、OT、MSW、放射線技師、介護支援専門員、薬剤師、検査技師、栄養士、救急救命士 等	・感染症セミナー ・リハビリ研究会 ・救急救命士等救急隊員研修会 他	4	1,573
	11	福岡和白病院 (H26. 12. 5)	一般369	59.2	92.6	7,953	13,433	12,443	4,090	開放型病床、CT、MRI、RI、ガンマナイフ、リニアック、手術室、MCV・SCV、会議室、講堂	36	109	5,384	50	5,339	1,211	看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護職 等	・臨床症例検討会 ・地域医療研修会 ・九州山口救急救命看護セミナー 他	4	10,909

粕屋 (1病院)	12	独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター (H19. 4. 19)	一般541 結核38 感染症12	73.2	70.4	7,667	10,467	7,372	685	診察室、CT、MRI、リニアック、RI、血管連続 撮影装置、会議室、研修センター、共同利用 病床	5	59	3,350	26	1,300	652	看護師、放射線技師、薬 剤師、理学療法士、臨床 検査技師等	・整形外科福岡東部シームレス研究 会 ・福岡東脳卒中地域連携のタベ ・救急症例検討会 他	4	1,078
宗像 (1病院)	13	宗像医師会病院 (H12. 3. 31)	一般164	89.1	95.7	4,817	5,401	5,172	2,802	MRI室、CT室、アンギオ室、透析室、内視鏡 室、手術室、救急処置室、地域医療連携室	149	102	ア)2.76 イ)439	56	2,003	1,813	看護師、薬剤師、放射線 技師、栄養士、作業療法 士等	・宗像臨床アワーベント ・宗像内科医会 ・消化術後カンファレンス 他	4	2,508
筑紫 (3病院)	14	福岡大学筑紫病院 (H19. 4. 19)	一般308 感染症2	89.5	96.2	9,447	10,554	10,157	5,085	開放病床、CT、MRI、エックス線、超音波、内 視鏡、脳波、手術室、図書室、病理	10	71	3,413	140	12,077	10,554	看護師、理学療法士、放 射線技師、検査技師、介 護士、栄養士、薬剤師、 SW等	・早期胃癌研究会 ・地域連携セミナー ・薬業連携会議 他	4	4,485
	15	医療法人徳洲会 福岡徳洲会病院 (H20. 4. 1)	一般600 感染症2	60.0	73.2	9,986	16,631	12,187	2,365	CT室、MRI室、RI室、PET-CT、図書室	5	215	10,392	31	1,300	839	看護師、検査技師、薬剤 師、介護士、MSW、リハ ビリ等	・北部筑紫地区広域脳連携講演会 ・認知症とせん妄について ・臨床検査値読み方セミナー 他	4	37,305
	16	福岡県済生会二日市病院 (H24. 7. 27)	一般260	69.8	97.8	5,881	8,416	8,234	1,730	CT、MRI、RI、超音波検査装置、図書室、会 議室、地域医療連携室、診療録管理室、医薬 品情報管理室、共同利用病床	10	119	3,343	17	351	259	看護師、介護士、言語聴 覚士等	・脳卒中と認知症 ・ウイルス感染症対策 ・二次救急救命講習会 他	4	11,720
朝倉 (1病院)	17	朝倉医師会病院 (H12. 3. 31)	一般300	86.4	49.3	4,683	5,415	2,670	3,911	病床、集中治療室、手術室、内視鏡室、エ コー室、X線装置、MRI、検体検査室、生体検 査室、間接熱量測定装置、体成分分析装置	289	63	1,570	19	762	408	看護師、薬剤師、検査技 師、放射線技師、管理栄 養士等	・定例カンファレンス ・学術講演会 ・朝倉医師会医学会 他	4	11,085
久留米 (4病院)	18	聖マリア病院 (H20. 4. 1)	一般931 療養100 精神60 感染症6	95.0	167.3	17,420	18,327	30,669	1,429	開放病床、MRI室、CT室、アンギオ室、内視 鏡室、手術室、救急処置室、連携推進室、図 書室	5	504	10,384	91	6,306	890	保健師、助産師、看護 師、救急救命士、介護福 祉士、医療保育士、薬剤 師、診療放射線技師、臨 床検査技師、臨床工学 技師、視能訓練士、歯科 衛生士、臨床心理士、理 学療法士、作業療法士、 言語聴覚士、栄養士、調 理師、診療情報管理士、 MSW、PSW等	・地域医療支援講演会 ・救命救急センター症例検討会 ・感染対策講習会 他	4	8,025
	19	社会医療法人天神会 新古賀病院 (H22. 4. 1)	一般234 感染症8	69.1	96.0	6,787	9,815	9,424	1,276	CT室、MRI室、RI室、救急処置室、地域医療 連携室	5	177	3,415	28	1,286	525	看護師、薬剤師、栄養 士、臨床検査技師、臨床 工学技師、理学療法士、 介護支援専門員等	・社会医療法人天神会医療文化セミ ナー ・学術講演会 ・救急研修会 他	4	1,297
	20	嶋田病院 (H23. 4. 28)	一般150	77.6	95.2	5,336	6,875	6,545	2,640	病床、MRI、CT、内視鏡室、手術室、救急処 置室、会議室、地域連携室等	5	74	2,156	33	997	757	看護師、薬剤師、言語聴 覚士、診療情報管理士 等	・糖尿病の基本を学ぶ会 ・NST勉強会 ・薬業連携協議会 他	4	1,911
	21	田主丸中央病院 (H24. 7. 27)	一般178 療養72 精神93	55.4	87.3	2,945	5,310	4,639	3,495	病床、CT、MRI、RI、血管造影装置、ホルタ 一心電図解析機器、救急処置室、図書室	343	74	1,631	16	712	272	看護師、薬剤師、放射線 技師、検査技師、理学療 法士、臨床心理士、救急 救命士、介護福祉士等	・地域医療連携学術講演会 ・浮羽医療連携症例検討会 ・甘木朝倉消防本部との合同救急搬 送患者2次検証会 他	4	8,181
八女 ・ 筑後 (2病院)	22	公立八女総合病院 (H26. 12. 5)	一般300	64.1	117.8	4,871	7,595	8,952	1,292	医局、カンファレンス室、会議室、図書室、内 視鏡検査・生理機能検査・放射線施設におけ る各医療機器、超音波装置	30	70	2,430	47	1,534	228	看護師、臨床検査技師、 薬剤師、診療放射線技 師、消防士、理学療法 士、作業療法士、管理栄 養士、ケアマネージャー 等	・八女緩和ケア教育セミナー ・プライマリーケア・CPC ・NST臨床実地修練 他	4	11,988
	23	筑後市立病院 (H30. 4. 1)	一般231 感染2	54.3	75.7	3,441	6,326	4,789	1,358	開放型病床、CT、MRI、カンファレンス室、多 目的ホール、会議室、図書室	10	41	1,449	18	546	142	看護師、社会福祉士、臨 床検査技師、薬剤師、言 語聴覚士、理学療法士、 管理栄養士等	・NST専門療法士実地修練 ・地域連携認知症勉強会 ・褥瘡対策勉強会		914

有明 (1病院)	24	大牟田市立病院 (H24. 7. 27)	一般350	87.0	98.1	7,996	9,182	9,010	757	開放病床、CT、MRI、核医学検査装置、医局、会議室、図書室	28	62	2,100	38	1,229	621	看護師、臨床検査技師、薬剤師、放射線技師、リハビリ(P.T・O.P・S.T)、MSW、救急救命士 等	・臨床病理カンファレンス ・臨床がんカンファレンス ・救急症例検討会 他	4	2,634
飯塚 (1病院)	25	飯塚病院 (H17. 4. 1)	一般978 精神70	70.2	95.9	14,259	20,309	19,489	8,235	手術室、CT、MRI、腹部超音波、RI(骨、Ca、肝その他)、骨密度測定、FCR撮影	30	107	7,195	136	8,171	2,963	看護師、薬剤師、検査技師、工学技師、放射線技師、リハビリ、栄養士、S.V.W 等	・麻生飯塚漢方診療研究会 ・飯塚褥瘡勉強会 ・地域連携バス研究会 他	4	7,304
田川 (1病院)	26	社会保険田川病院 (H26. 12. 5)	一般300 療養35	62.9	92.5	7,145	11,349	10,498	2,781	臨床検査室、病理検査室、病理解剖室、生理機能検査室、内視鏡検査室、手術室、放射線検査室(X線一般撮影、CT、MRI、乳房撮影、透視、血管造影、骨密度測定)、救急外来	5	74	2,653	57	2,023	638	看護師、放射線技師、検査技師、薬剤師、PT、OT、MSW 等	・田川消化器病勉強会 ・TVシンポジウム ・地域連携バス研究会 他	4	2,141
北九州 (11病院)	27	小倉記念病院 (17. 4. 1)	一般658	85.5	243.7	9,984	11,667	28,438	231	共同利用専用病床、放射線機器(CT、MRI、血管撮影装置等)、検査機器(心エコー、腹部エコー、脳波、肺機能等)、診察室	5	275	4,817	30	2,610	1,153	看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、理学療法士、作業療法士、栄養士 等	・小倉循環器内科セミナー ・脳卒中になっても「たすかる」ための会 ・救急セミナー 他	2	15,744
	28	製鉄記念八幡病院 (H17. 4. 1)	一般453	94.2	125.4	8,724	9,253	11,611	5,838	手術室、開放病床(10床)、地域医療連携システム(SMILE)、CT、MRI、リニアック、ガンマナイフ、X線造影検査装置、骨密度測定装置、心電図検査装置、心エコー装置、呼吸機能検査装置、内視鏡検査装置、超音波検査装置、会議室、図書室	10	204	3,260	66	3,937	3,407	看護師、看護助手、理学療法士、作業療法士、MSW、ケアマネージャー、臨床工学士、介護福祉士 等	・八幡循環器医療連携会 ・プライマリーケア医のための糖尿病・腎臓病教室 ・高齢者の摂食嚥下について 他	4	24,384
	29	戸畑共立病院 (H17. 4. 1)	一般218	87.0	115.6	7,751	8,906	10,296	5,284	臨床検査室、病理検査室、生理機能検査室、内視鏡検査室、手術室、放射線検査室(X線、CT、MRI、乳房撮影、透視、血管造影、骨密度測定、リニアック、サイバーナイフ)、結石破砕室、核医学装置、PET-CT、救急センター、歯科X線装置、リハビリテーション室、ICU 等	5	159	2,577	17	545	258	看護師、放射線技師、理学療法士、薬剤師、管理栄養士、介護福祉士、歯科衛生士 等	・戸畑セミナー整形カンファレンス ・戸畑NST教室 ・看護セミナー 他	4	7,888
	30	独立行政法人地域医療機能推進機構九州病院 (H19. 4. 19)	一般575	88.3	135.7	11,883	13,455	18,259	295	高額医療機器(MR、CT、RI、マンモグラフィ)、開放型病床、図書室	5	193	6,313	69	2,283	1,326	看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、臨床検査技師、管理栄養士、介護士、MSW 等	・北九州心リハセミナー ・整形外科ネットワークフォーラム ・NST勉強会 他	4	8,466
	31	独立行政法人国立病院機構小倉医療センター (H20. 4. 1)	一般350 精神50	89.6	109.3	6,265	6,985	7,636	568	CT、MRI、RI、リニアック、放射線エコー、開放型病床	20	385	1,225	60	2,096	538	看護師 等	・リソースナースセミナー ・小児科懇話会 ・がん医療に関する学習会 他	3	21,060
	32	独立行政法人労働者健康福祉機構九州労災病院 (H21. 4. 1)	一般450	85.6	150.9	9,499	11,093	16,742	2,873	病床(10床)、手術室、カンファレンス室、会議室、CT、RI、MRI、放射線治療装置	10	173	3,559	41	2,357	724	看護師、放射線技師、検査技師、PT、OT、ST、MSW 等	・地域医療連携看護セミナー ・九州地域医療連携勉強会 ・リハビリテーション研究会 他	4	6,189
	33	健和会大手町病院 (H21. 4. 1)	一般499	76.1	108.3	4,039	5,305	5,746	583	病床、MRI、内視鏡、X線撮影、脳波、超音波検査、ホルター心電図、RI、内視鏡室 等	5	222	6,677	27	1,748	705	看護師、検査技師、介護福祉士、薬剤師、栄養士、リハビリ技師、臨床工学技師、救急救命士 等 等	・心エコー勉強会 ・CPCRセミナー ・リハビリ学習会 他	2	11,979
	34	北九州市立医療センター (H23. 4. 1)	一般620 感染症16	86.5	68.0	10,485	12,113	8,241	1,487	CT、MRI、RI、マンモグラフィ、エコー 開放病床、会議室、図書室、医療情報管理室、医薬品情報管理室、臨床検査に関する施設 その他	7	554	1,488	39	1,716	738	看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、栄養士、介護支援専門員、MSW 等	・医療連携の会 ・乳腺テクニカルカンファレンス ・産産期症例検討会 他	2	3,663
	35	独立行政法人労働者健康福祉機構九州労災病院門司メディカルセンター (H24. 7. 27)	一般250	74.0	70.0	2,149	2,903	2,033	366	放射線機器一式(MRI、CT、X線骨密度測定装置、X線乳房撮影装置、血管造影システム等)、生理検査内装一式(負荷心電図装置、心電図モニターシステム、長時間心電図再生装置等)、内視鏡検査機器一式(汎用超音波診断装置、上部消化管汎用ビデオスコープ等)、共同診療時使用設備(登録医控室、ロッカー、白衣、名札等)、共同利用優先病床(5床)、その他(手術室等)	5	120	1,000	116	1,692	144	医療従事者	・内科・外科・放射線科合同カンファレンス ・院内感染対策研修会 ・医療安全研修会 他	2	4,508
	36	遠賀中間医師会おんが病院 (H24. 7. 27)	一般100	86.4	66.6	3,376	3,906	2,602	1,036	病院施設、設備のすべて	10	56	1,084	35	1,211	639	看護師、薬剤師、管理栄養士、放射線技師、救急救命士、消防士 等	・新人看護職員研修 ・遠賀中間糖尿病カンファレンス ・遠賀中間地区救急業務症例検討会 他	4	3,954
37	北九州市立八幡病院 (H30. 4. 1)	一般439	67.0	96.6	6,213	9,266	8,957	857	医療機器(CT・MRI・RI・エコー)、開放病床、手術室、内視鏡室、医薬品情報管理室、図書室、会議室	5	209	3,567	12	608	441	看護師、救急救命士、消防隊員、検査技師、放射線技師、介護福祉士、OT、PT 等	・プレホスピタル・インホスピタルセミナー ・八幡循環器カンファレンス ・八幡循環器カンファレンス		2,585	
京築 (1病院)	38	新行橋病院 (H22. 4. 1)	一般246	58.3	84.7	4,860	8,331	7,060	1,697	MRI室、CT室、アンギオ室、透析室、内視鏡室、手術室、救急処置室、入院施設、医療連携室 等	5	56	3,750	42	1,867	1,726	看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、栄養士、放射線技師 等	・ICN院外研修会 ・学術講演会 ・感染対策勉強会 他	1	7,739

平成29年度地域医療支援病院業務報告（任意的に求められる取り組み）

取組み事項			①病院の機能に関する第三者評価	②果たしている役割に関する情報発信	退院調整部門 退院調整部門の概要	③地域連携を促進するための取り組み	④その他			
医療圏	No.	地域医療支援病院名 (承認年月日)	病床数 (床)	評価を受けた機関名等	情報発信の方法・内容等の概要	ICT（情報通信技術）を用いた病診連携等	退院調整部門の概要	地域医師会と連携のもとに策定した地域連携クリティカルバスの種類・内容	地域連携クリティカルバスを普及させるための取り組み	地域の看護学校実習生に係る受け入れ状況
	1	糸島医師会病院 (H15.3.13)	一般150	(公財)日本医療機能評価機構による認定3rd G:Ver.1.1取得(H28.5)	地域の集配システム等を利用して糸島市内の医療機関や行政機関(糸島市役所、糸島消防本部、糸島保健所)へ向けて研修会の案内や診療、検査等に関する情報を告知している。 毎月、病院だよりを発行し、実施した研修会の詳細他、幅広く情報を市内の医療機関へ発信している。	H27年度とびうめネット加入	退院に関して様々な課題等を持つ患者・家族に対して地域医療連携室が退院調整を行っている。 ソーシャルワーカーや看護師、セラピスト等が協力し、必要に応じて退院前に自宅訪問し、在宅療養環境整備の支援等もを行っている。	医師会等で策定した「脳血管障害地域連携バス」、「がん地域連携クリティカルバス」をともに、他の医療機関とも連携して、均てん化を図っている。	地域連携クリティカルバスに基づいて治療した患者のかかりつけ医等に対して内容等の説明を行い普及に努めている 2019年度の地域医療関係者が参加する研修会の中でも説明し普及に努める予定	0名 ※平成29年4月開校した福岡看護大学の実習を2019年から受入予定
	2	独立行政法人国立病院機構九州医療センター (H16.2.27)	一般650 精神 50 感染症2	(公財)日本医療機能評価機構3rdG:Ver.1.0(平成28年2月19～20日受審、平成26年5月2日認定)	ホームページ、診療年報、広報誌及び地域医療支援病院運営会議、地域連携セミナー、研修会等を開催し、診療内容・医療サービス、診療実績、診療機能分析レポート及び臨床評価指標(国立病院機構総合研究センター作成)を発信している。 病院の理念、基本方針をはじめ自院の役割や診療機能等さまざまな内容をホームページにより作成し、定期的又は随時更新している。また、広報誌「KMCニュース」は年4回発行しており、自院の取組、ニュース、連携医療機関の紹介及び診療実績を掲載し、幅広く配布している。	現在のところ、ICTを用いた病診連携は行っていない。 ※とびうめネットは平成31年4月導入予定。	地域医療連携室に退院調整部門を設けており、ソーシャルワーカー、看護師、がん連携部、事務職員が協力し、紹介患者の受入、退院患者の転院・退院調整、連携医療機関との調整等を行っている。	【福岡市医師会】大脳骨髄部骨折・脳卒中・心筋梗塞、慢性腎臓病(KKD) 【福岡県医師会】胃がんステージⅠ・胃がんステージⅡ/Ⅲ・大腸がんステージⅠ・大腸がんステージⅡ/Ⅲ・乳がん・肝がん・肺がん・前立腺がん	病院独自の地域連携バス(前立腺がん術後放射線治療後バス)の説明は文書で郵送 大脳骨髄部骨折・脳卒中の地域連携バス実績の連携先への報告会(年1回) 実績報告後に登録医療機関と個別にブースを作って面談を行っている	2,388名 福岡市医師会看護専門学校、原看護専門学校、福岡看護協会、福岡女学院看護大学、福岡県私設病院協会看護学校、国際医療福祉大学、純真学園大学
	3	公立学校共済組合九州中央病院 (H18.4.1)	一般330	(公財)日本医療機能評価機構一般病院2(3rdG:Ver.1.1)(平成29年11月21～22日)	病院ホームページで、地域医療支援病院としての取り組み、利用方法などの情報発信、診療実績等を公表している。 広報誌では、登録医及び連携病院の紹介、診療実績など継続し発信している。 また、外交担当MSW(前方支援担当者・後方支援担当者)が地域の医療機関を訪問し、診療・医療機器情報や空床状況などの情報提供を行っている。 併せて、地域の医療機関のニーズに関して情報収集を行い診療科部長と同行訪問を行い、診療に関する情報交換を積極的に行っている。	情報セキュリティに関して、公立学校共済組合本部一元管理されており、とびうめネットへの登録について継続協議を行っていたが、このシステム上の問題が解決されたことを確認できたため、平成30年度末までにとびうめネットへの正式登録を行っている。	患者・家族が退院後に安心して生活できるように、MSW、看護師等が連携する医療機関へ向かい退院支援に関する情報交換を行うなど、在宅医療、後方支援病院、介護施設などへの調整を図っている。入院支援センターと連携して、入院前から医療相談等のサポートを行っている。	福岡市医師会方式脳卒中バス・大脳骨髄部骨折地域連携バス 福岡県がん地域連携バス:胃がん、大腸がん、肝がん、肺がん、乳がん、前立腺がん	福岡市医師会地域連携バスワークショップに参加し、バス分析のもと、医療の効率化、標準化を検討している。また、MSWが連携医療機関へ向かいクリティカルバスの普及などの情報交換を行い「シームレスな顔」の見える連携を図っている。	271名 純真学園大学、福岡市医師会看護専門学校、福岡看護大学
	4	福岡市立子ども病院 (H19.9.1)	一般239	(公財)日本医療機能評価機構 病院機能評価(3rdG:Ver.1.1)平成28年6月	「年報」は、開院以来毎年発行し、病院概要や患者統計、経営状況をはじめ、各診療部門、医療技術部門、看護部門の業務内容及び研究・研修内容等を掲載し、医療機関や行政機関等に配布した。 パンフレット「病院のご案内」は、各診療科をはじめ、医療技術部門、看護部門等の紹介及び登録される方への案内等を掲載している。毎年度更新しており、医療機関や行政機関等に配布した。 「子ども病院フェスタ」を平成29年10月7日に開催。一般の方、医療従事者を対象とした参加型・体験型のイベントを実施。病院の仕事や健康について学ぶ機会を提供し	Skypeを用いたカンファレンスの実施(平成29年度実績:1件) 福岡県医師会診療情報ネットワーク「とびうめネット」への参加(平成29年12月)	地域医療連携室を窓口として、MSW(看護師2名、社会福祉士3名)が入院カンファレンス等へ参加し、主治医、病棟看護師等から情報入手し、医療的・社会的理由等で退院困難事例となるリスクのある患者を抽出し、関連する医療、行政、教育機関等との連携を行う。特にNICUについては、入院が長期化しやすい傾向もあるため、NICUに退院支援を担当する看護師をおき、連携室と情報共有を行っている。	①福岡病院との「小児SAS検査連携バス」を継続使用 ②移行期バスを策定検討中 ③循環器領域における院内バス「移行期支援バス」を策定し、平成31年1月21日より使用開始。稼働状況を確認しながら、今後、地域の医療機関等との連携を行い、患者へ最適な医療を提供するための、「移行期バス」を作成・展開を行う予定。	・学会等での「移行期」問題を提起 ・福岡市立子ども病院地域医療支援病院諮問委員会において、外部の有識者へ「移行期医療」や「在宅医療」等の問題を提起(平成30年度に実施)	450名 九州医療センター附属福岡看護助産学校、原看護専門学校、麻生看護大学校、西南女学院大学、精華女子高等学校、福岡県立大学、日本赤十字九州国際看護大学、帝京大学福岡医療技術学部、自衛隊福岡病院看護学校、福岡県私設病院協会看護学校、福岡市医師会看護専門学校
	5	国家公務員共済組合連合会浜の町病院 (H21.4.1)	一般468	(公財)日本医療機能評価機構による機能別版評価項目3rdG:Ver.1.0取得(平成26年9月24～25日)	当院ホームページにおいて、セミナー・研修会開催情報を発信 浜の町病院地域医療連携の会(年2回開催) 年4回広報誌(はまかせ)の発行 当院登録医の下に勤務されている看護師さんに研修会の案内を発送している。	放射線検査予約システム、周産期ネットワークの導入	退院調整看護師3名、ソーシャルワーカー3名で対応。 当院での急性期治療後に、引き続き入院加療が必要な方に対して在宅サービス、適切な医療機関の紹介、訪問診療所、訪問看護ステーション、地域包括支援センター等との連携を密に連絡調整を行っている。	福岡市医師会及び連携を取っている医療機関とともに、「大脳骨髄部骨折地域連携クリティカルバス」を運用。 福岡県がん診療連携バス(胃がん・大腸がん・肝臓がん・肺がん・乳がん)	当院外来フロアに関連医療機関を掲示し、患者・家族への周知を図っている。	2,176名(延べ・日) 福岡市医師会看護専門学校、日本赤十字九州国際看護大学
	6	福岡県済生会福岡総合病院 (H22.4.1)	一般380	ISO9001の更新(H30.2)(ヒューロベリタス:審査会社)	当院のホームページにおいて、院外の関係者に向けて研修の開催に関する情報を周知する他、無料・低額診療、小児島島島健診を行っている事や、がん診療連携拠点病院である事、及び患者向け情報誌「ふくふくネット」を掲載している。	登録医に対しては、CT、MRI等の検査予約、いくつかの診療科の診療予約をホームページ上で行っている。 とびうめネットワークの登録を行い、利用をはじめます。	看護師・ソーシャルワーカーが共同して退院・転院調整を行っている。	大脳骨髄部骨折バスの運用の他、がん診療連携拠点病院である当院及び都道府県がん診療拠点病院である九州病院、九州がんセンターを基幹病院とした、5大がんバスの運用をしている。	脳卒中連携バス、大脳骨髄部骨折バスについては、福岡市医師会が中心となり、年3回のワークショップを行い情報交換の場となっている。 がんバスについては、九州がんセンターが中心となり連絡協議会の地域連携部会に県内の拠点病院が集まり普及させるための取り組みを協議。	978名 福岡市医師会看護専門学校、麻生看護大学校、福岡看護専門学校、純真学園大学
	7	福岡市民病院 (H23.4.1)	一般200 感染症4	(公財)日本医療機能評価機構による機能別版評価項目3rdG:Ver.1.0取得(H26.1.6) 一般病院2審査体制区分3(平成27年1月14～15日受審、平成27年4月3日認定)	診療情報誌ふれあい、年報アイリスを年に1回、季刊誌FCHを年に4回発行。また各診療科のパンフレットを随時発行し、開放型登録医や近隣の医療機関へ送付している。 また、本病院のホームページにおいて、地域の医療機関、医療従事者向けに、患者紹介の方法、院内研修会・勉強会の案内、開放型病棟の案内、地域連携バスの案内などを周知している。	福岡県医師会診療情報ネットワークとびうめネットに、緊急時紹介先医療機関として参加している。	入院中の患者さんやご家族からの医療的、社会的、経済的な問題への相談に応じ、問題解決の助言、解決、調整を行い、安心して療養生活が過ごせるよう支援するために、地域医療連携室が退院調整部門を担っている。 医療ソーシャルワーカーや看護師が協力して退院調整を行い地域医療機関や保健・福祉と連携を図り、在宅療養や転院に向け調整し、切れ目のない医療サービスの提供を行っている。 また、医療ソーシャルワーカーを専任で各病棟に配置し、各病棟の退院支援ナースと協働して入院時より退院支援を行っている。	福岡市医師会及び関係医療機関とともに、「脳血管地域連携バス」、「大脳骨髄部骨折地域連携バス」、「がん地域連携バス」及び「慢性腎臓病地域連携バス」を策定し、急性期病棟である本病院及び市内急性期病棟を基幹病院として回復期リハビリテーション病棟や診療所、療養施設とも連携して、患者情報を共有することにより、専門医療連携を行い、地域全体でより適切な治療を提供している。	年1回連携先の回復期リハビリテーション病棟との間で、医療連携バス連絡会を当院主催で開催し、当該クリティカルバスの概要を説明するとともに、症例検討を通してバスの評価と見直しを行うなど、関係医療機関に周知している。 また、福岡市医師会主催の地域連携バスワークショップ(年3回)に毎回、医師や看護師、医療ソーシャルワーカー、リハビリスタッフ等が参加し、院内への普及活動を行っている。	1,319名 福岡市医師会看護専門学校、福岡女学院看護大学、福岡看護大学
福岡・糸島(11病院)	8	福岡赤十字病院 (H23.4.1)	一般509 感染症2	(公財)日本医療機能評価機構による機能別版評価項目3rdG:Ver.1.1取得(平成28年2月4日)	当院のホームページにて研修会の開催や病診連携について案内すると共に、それらの内容を掲載した広報誌を作成、近隣の病院へ送付し周知している。	とびうめネットに参加し、かかりつけ医と救急医療の連携に努めている	入院時から生活者としての在宅復帰を視野に、退院後も安心して療養生活が送れるよう、患者家族に対して退院調整看護師や医療ソーシャルワーカーが協力して、訪問診療、訪問看護ステーション、ケアマネジャーなどの地域との連携した在宅サービスの調整や、転院調整を行っている。	福岡市医師会「脳血管障害・大脳骨髄部骨折地域連携バス」、「ICKD」、「がん地域連携クリティカルバス」	当院において連携バスを積極的に活用することで普及させている。	419名 日本赤十字九州国際看護大学、学校法人麻生塾専門学校麻生看護大学校、福岡県看護協会
	9	社会医療法人財団白十字会白十字病院 (H24.7.27)	一般411 療養55	(公財)日本医療機能評価機構による機能別版評価項目3rdG:Ver.1.0取得(H26.1.6) (公社)日本診療放射線技師会による医療被ばく低減施設認定(認定H23.3.1)更新(H28.7.1)	「毎月月初めに登録医を中心とした医療機関へ外来予定表等を郵送している。 ・病院広報誌「白十字病院だより」を年3回発行、「白十字病院登録医会(そったい会)」会報を年3回発行、年報を年1回発行、登録医を中心に近隣の医療機関へ郵送している。 ・「白十字病院だより」、「白十字病院登録医会(そったい会)」会報はホームページで閲覧が可能。 ・定期郵送物の他にも重要なお知らせがあれば、その都度FAX又は郵送で情報発信を行っている。 ・顔の見える連携をモットーに医療機関を訪問、情報発信、意見収集を行っている。 ・年度初めに新	福岡県医師会診療情報ネットワークとびうめネットに、緊急時紹介先医療機関として参加している。	病床管理・退院支援委員会にて、退院支援システムを導入し、要支援者の把握に努めている。 在宅連携支援課所属のMSWにおいて要支援者に対する調整の実務を担当している。また、各病棟においては在宅支援スタッフが連携の要を担っている。	・地域連携クリティカルバスの策定は行っていないが、「脳血管障害地域連携バス」、「大脳骨髄部骨折地域連携バス」は後方支援の立場として中核病院との連携を積極的に行っている。 ・医師会による慢性腎臓病(KKD)地域連携バスにおいて、二次医療機関として地域との連携を図っている。 ・糖尿病地域連携バスの運用は行っていないが、「糖尿病連携手帳」を用いて地域のクリニックとの連携を図っている。	福岡市医師会、計画管理病院が主催する地域医療連携ワークショップや連絡会などの会合に出席し、情報交換に努めている。	212名 福岡市医師会看護専門学校、福岡国際医療福祉学院、精華女子高等学校、麻生看護大学校、日本赤十字九州国際看護大学
	10	福岡記念病院 (H26.12.5)	一般239	(公財)日本医療機能評価機構による機能別版評価項目一般病院2<Ver.1.0>(取得:平成25年10月4日)及び病院機能評価付加機能救急医療機能<Ver.2.0>(取得:平成25年10月4日)	①ホームページ 当院のホームページにおいては、患者様向けのご案内として、診療、検査のご案内をはじめ代表的な高度医療の紹介、部門別特徴の内容として病診連携、医療連携のついで、看護学生インターンシップのご案内等を掲載し、病院情報の発信を推進している。 ②広報誌 「face to face」年4回発行(3,000部/回)、当院の新着情報、新任医師紹介をはじめ当院連携医のご紹介や診療情報等を掲載し、患者様への情報提供を推進している。 毎週、福岡市及び糸島市の医療機関・施設等へ約700部発送。 ③年報 年1回発行(とびうめネット 救急搬送された場合に、かかりつけ医にて作成された患者基本情報を参照することで迅速で適正な医療を支援している。	地域医療連携室に退院調整部門を設け、専任の看護師1名、専任の医師1名、看護師1名、社会福祉士1名、事務職5名を配置。 入院早期より退院困難な要因を有する者を抽出し、その上で適切な退院先に適切な時期に退院できるよう、退院支援計画の立案及び支援を行っている。	福岡市医師会との連携のもとに策定した地域連携クリティカルバス(大脳骨髄部骨折・脳卒中)を策定し、本病院を計画管理病院として地域連携診療計画書「地域連携バス」を作成し、地域連携機関との間で診療情報を共有・活用することで質の高い医療を提供している。	入院後早期にカルテより情報収集を行い地域連携バス対象者を把握、バス対象者であることを主治医・病棟看護師・リハビリスタッフへ報告。近隣の回復期病院に対し連携バス協力医療機関への参加を促進している。	2,329名 福岡医療専門学校
	11	福岡和白病院 (H26.12.5)	一般369	(公財)日本医療機能評価機構による機能別版評価項目一般病院2<Ver.1.0>(取得:平成28年3月)に一般病院2(3rdG:Ver.1.0)を受講し認定を受けている。(一般病院2/3rdG:Ver.2.0をH31年5月に受講予定)また、福岡市東区医師会東区病部会の相互機能評価を受けている。	予防医学や健康増進の情報発信として院内・外(地域の公民館等)に地域住民を対象とした健康教室や健康体操のポスターを掲示するほか、登録医療機関や院外の地域医療従事者に向けて、診療予定や研修開催に関する情報を月に1度発送。合同カンファレンスや地域医療研修会などの勉強会を積極的に開催している。 また本病院ホームページにおいても健康教室、健康体操や特別講演、地域医療研修会などの予定を掲載し、個別訪問するなどして案内している。 また、新たな設備や治療法導入の際は、関係する医師及び技師による医療機関への訪問活動を行っている。	とびうめネット福岡県診療情報ネットワークに参加し、診療所・近隣病院と必要情報を共有し地域医療に努めている。 また、自院で管理する医療搬送用ヘリを用いた僻地医療(長崎県対馬、吾岐エリア)にも力を入れており、画像コンサルとや急患対応ができるようあじさいネットワーク(長崎県地域医療連携ネットワーク)に参加し、迅速な連携を図っている。	・MSW7名、退院支援看護師5名を専任で配置し、入院患者の退院調整を行っている。MSWのうち6名は社会福祉士、1名は認定がん専門相談員である。 ・入院3日以内に退院調整スクリーニングを行い、早期より情報収集を行っている。 ・入院7日以内に、患者・家族と面談し、退院後の生活で不安に思うことを伺い、退院支援計画書を作成し、説明を行っている。 ・入院7日以内に多職種(主治医、看護師、リハビリ職員等)とカンファレンス開催し、情報共有や方向性の確認、課題の把握など、迅速な退院調整を行っている。 ・主に在宅復帰支援を	福岡市医師会方式脳血管障害地域連携バス 福岡市医師会方式大脳骨髄部骨折地域連携バス	年に3回(3月、7月、11月)開催される地域連携ワークショップの参加 医師・看護師・MSWと地域連携バスの実績確認(月1回) 医師による地域連携バス対象者の迅速な選定と対象者へのバスの説明 医療連携室によるデータ管理	278名 福岡看護専門学校

宗像 (1病院)	13	宗像医師会病院 (H12. 3. 31)	一般164	(公財)日本医療機能評価機構による機能制度 版評価項目3rdG: Ver 1.0取得(平成25年8月18 日)	本病院のホームページにおいて、院外の関係者に向けて研修の開催 に関する情報を周知するほか、看護学校実習生の受け入れ状況を掲 載している。また、会員向けに「ご利用ハンドブック」を毎年発行して いる。	「とびうめネット」や宗像医師会独自の事業である 「むーみんネット」を活用し、診療所と必要情報を共有 することで、地域における継続性の高い医療の 提供に努めている。	退院後も様々なニーズや課題をもつ患者・家族に対して安定した療養 生活を送ってもらうように、地域医療連携課に退院調整部門を設 けており、ソーシャルワーカーや看護師が協力し、必要に応じて、往診や 訪問看護等の在宅サービスを調整している。	がん診療連携拠点病院等を中心に策定された地域連携診療計 画に基づいたがん治療連携に参加し、宗像医師会との連携の もとに、腫瘍内科・緩和ケア病棟を設置し、がんに関して地域で充 つする体制を構築している。	宗像医師会を通じて普及させている。	162名 宗像看護専門学校、日本赤十字 九州国際看護大学
	14	福岡大学筑業病院 (H19. 4. 19)	一般308 感染症2	平成31年4月から平成32 年度の事業として計画す る	【方法】本病院のホームページ、広報誌(ちくしニュース)、病院パンフ レット、年報 等 【内容】共同利用に関する事、看護実習受け入れ、地域連携クリティカル パスに関する事	とびうめネットへ参加	患者さん、ご家族が安心して退院後の生活を送ることができるよう、入 院時より退院調整看護師、医療ソーシャルワーカーが主治医や病棟 看護師と協働して退院支援・退院調整を行っている。 ・入院患者の支援、退院・転院時の相談・支援、退院後の在宅療養移 行支援、生活・療養に関する相談支援、がん相談支援、かかりつけ医 ・訪問看護チームとの連携、施設入所支援・連携など ・退院前や退院後に看護師・理学療法士等が自宅や住まいの場に出 向き、訪問看護師等と連携を図り、在宅療養をサポートしている。	・筑業医師会と3施設を基幹病院で「脳血管障害及び大脳骨髄 骨折地域連携バス合同運用会議」とし、年3回、連携医療機との 勉強会や意見交換会を開催し連携を図っている。 ・福岡県医師会及び関係医療機関とともに「がん地域連携クリテ ィカルパス」を策定し、福岡大学病院と連携し相談機能の充実を図 るとともに、がん医療の均てん化へ向け取り組んでいる。	・近隣の医療機関へ出向き、連携医療機関の登録 を推進している ・本病院の広報誌「ちくしニュース」へ地域連携バス 会議、実施状況を掲載 ・関係医療機関と連携を図り周知している	368名 福岡大学医学部看護学科、国際医 療福祉大学、福岡女学院看護大 学、国際医療福祉学院、筑業看護 高等専修学校、あさくら看護学校、 福岡看護専門学校
筑業 (3病院)	15	医療法人徳洲会 福岡徳洲会病院 (H20. 4. 1)	一般600 感染症2	(公財)日本医療機能評価 機構による機能種別 版評価項目3rdG: ver1.0 取得(平成25年11月)	ホームページや登録医療機関をはじめ近隣医療機関約730施設に毎月 病院情報(研修・医療講演)を送付。 看護実習生、地域連携バスの導入	福岡県医師会がおこなっているとびうめネットに加入 し、救急受け入れをはじめ登録医療機関間とも取り 組んでいる。	退院援助、心理的社会的援助等様々な患者の対応としてソーシャル ワーカー、退院支援看護師の医療福祉相談室を設置し、調整を行って いる。	福岡市医師会、筑業医師会及び地域の関係医療機関とともに 「脳卒中地域連携バス・大脳骨髄骨骨折」を策定し、地域完結型 医療を実施している。	関係医療機関との会合を行い、検証を行っている。	808名 純真学園大学、高尾看護専門学 校、九州看護福祉大学、福岡看護 専門学校、アカデミー看護専門学 校、精華女子高校、純真高等学 校、帝京大学、福岡保健・スポー ツ専門学校、九州医療スポーツ専門 学校、福岡自衛隊看護学院
	16	福岡県済生会二日市病院 (H24. 7. 27)	一般260	(公財)日本医療機能評価 機構認定基準3rdG: Ver1.1更新受審(平成28 年6月23日)	毎月、開業医登録への診療情報を発信している ホームページ内に院外の関係者に向けての研修の開催に関する情報 を発信 その他共同利用に関する情報を発信している	とびうめネットに登録している	地域医療連携室に退院調整部門を設置。ソーシャルワーカーと看護師 が必要に応じて往診や訪問看護等の在宅サービスを調整している。	大脳骨髄骨骨折地域連携バス、脳卒中地域連携バス	3か月に1度、協力病院との勉強会を行っている。	1,395名 高尾看護専門学校、筑業看護高等 専修学校、麻生看護専門学校
朝倉 (1病院)	17	朝倉医師会病院 (H12. 3. 31)	一般300	(公財)日本医療機能評価 機構認定(区分3、Ver 6.0:認定H22.8.6)更新 H27.10.2)	ホームページ上に、院外に向けて各種教室(勉強会)、研修会、特定健 診、人間ドックの案内や、「地域講演会」などへの講師派遣案内を掲載 している。	医師会会員は、電子カルテシステムを利用した地 域医療連携システムにより、カルテ閲覧が可能とな り、紹介した患者の治療状況が把握できる。また、 連携会議等で「とびうめネット」の案内及び活用、登 録方法の周知を図っている。	退院後も安心して地域での療生活が送れるよう、入院時より看護部 にて退院支援に取り組んでいる。 また、地域連携室においても、後方支援(退院調整)部門として、様々 なニーズや課題をもつ患者・家族に対し、転院又は施設、在宅サー ビスに向けた調整を行っている。	がんの地域医療連携クリティカルパス(私のカルテ)を運用して いる。	ホームページ上でのPR、会員Drへの研究会等 を行っている	174名 あさくら看護学校、昭和学園、緑 生館、福岡看護専門学校
	18	聖マリア病院 (H20. 4. 1)	一般931 療養100 精神60 感染症6	(公財)日本医療機能評価 機構(Ver6.0:区分4) 2013年6月7日 IS09001(2012年3月5 日) ISO15189(2015年12月 17日)	・聖マリア病院地域医療連携広報誌「百納の朝」の発行(毎月)・郵送。 ・聖マリア病院ホームページでわかりやすい案内等掲示し随時更新 ・高度医療機器、手術室等について利用案内をホームページに掲載 し、連携登録医の先生をはじめ地域の先生方を訪問し共同利用の促進 をはかる。 ・院外の関係者に向けて研修の開催に関する情報を周知。	ID-Link カルテ情報を他の病院やクリニック(かかりつけ 社会復帰)、退院援助および医療機関・施設等との転院調整など、さ まざまな要望や課題を持つ患者・家族に対して、退院後も安定した療 養生活を送ってもらうように、連携推進室に退院支援部門を設けて おり、ソーシャルワーカーや看護師が協力し、医療連携における後方 支援の強化を実践している。現在は、前方連携を主に担当する地域連 携推進部と患者支援部(医療相談および主に後方支援全般を担当)に 分かれ、お互いに協力し、円滑な業務につなげている。	転院支援・在宅療養状況の管理、自宅退院患者を中心とした退院支援 (社会復帰)、退院援助および医療機関・施設等との転院調整など、さ まざまな要望や課題を持つ患者・家族に対して、退院後も安定した療 養生活を送ってもらうように、連携推進室に退院支援部門を設けて おり、ソーシャルワーカーや看護師が協力し、医療連携における後方 支援の強化を実践している。現在は、前方連携を主に担当する地域連 携推進部と患者支援部(医療相談および主に後方支援全般を担当)に 分かれ、お互いに協力し、円滑な業務につなげている。	①がん地域連携バス 福岡県では県の拠点病院として、九州がんセンター・九州大学病院の2病 院が指定されている。地域拠点病院は13施設が指定されているが、当地 域では久留米大学病院、聖マリア病院で、高い水準のがん医療の均てん 化など、全国どこでも適切ながん医療が受けられるよう「がん相談支援 センター」の設置など体制整備を図っている。 ②久留米大脳骨近位部骨折地域医療連携バス 久留米医師会とも連携を取りながら、筑後地域の回復期病院・維持期施 設と連携強化し、大脳骨近位部骨折連携バスの事務局として地域完結型 の医療を実施し	がん地域連携バスについては、聖マリア病院ホ ームページで情報公開し、関係医療機関へ周知し ている。	1,814名 聖マリア学院大学、久留米医師会 看護専門学校、緑生館、長崎玉成 高校、熊本駅前看護リハビリテ ーション学院、博多高校、八女筑後 看護専門学校、高尾看護専門学校、 専門学校麻生看護専門学校、福 岡看護専門学校、折尾愛真高等学 校、原看護専門学校、精華女子高 等学校、昭和学園高等学校、九州 アカデミー学園、武雄リハビリテ ーション学校、桂誠高校、帝京大学、 聖マリア学院大学、佐賀大学学院
久留米 (4病院)	19	社会医療法人天神会 新古賀病院 (H22. 4. 1)	一般234 感染症8	(公財)日本医療機能評価 機構による機能種別 版評価項目 3rdG:ver 1.0(平成25年12月)	ホームページ及び広報誌にて、診療内容及び診療実績に関する情報 発信を行っている。専従の前方連携担当者を配置して更なる情報発信 を行う。	くろめ診療情報ネットワーク協議会(アザレアネ ット)に参加し、ID-LINKを用いて診療情報の共有 を病院・診療所と行っている。	入院時より病棟退院調整看護師が関わり早期退院に向けての患者の 情報確認を行う。また、地域医療連携室に所属する看護師、MSWが医 師及びヒコメディカルスタッフと連携し、状況に応じたパターンで退院支援 を実施している。	筑後地区脳卒中地域連携の会に計画管理病院として参加。	筑後地区脳卒中連携の会では、連携バス運用に 関する部会を行っており、看護師、リハビリ、栄養 士、SWがそれぞれの部会に参加している。	1,671名 古賀国際看護学院、久留米医師会 看護学校、高尾看護専門学校、杉 森高校
	20	嶋田病院 (H23. 4. 28)	一般150	(公財)日本医療機能評価 機構 新規認定2005年 Ver.4、第1回更新認定 2015年Ver.6、第2回更新認定 2015年3rdG Ver.1.0(一般病 院2)、新規付加機能(緩和 ケア)2015年、リハビリテ ーション機能 前機能2017年	広報誌、ホームページ、フェイスブック、メールマガジン、院内・院外健 康教室、連携だより	IDリンク	地域医療連携室の後方支援として退院調整支援をMSW5名で担当。 実際には、病棟看護師、リハビリセラピスト、在宅部門などと連携を取り ながら実施。	大脳骨髄骨骨折・脳卒中回復期バス、 循環型糖尿病地域連携バス(当院は開業医による循環型バス)	連携講演会、薬業連携会議、医科歯科連携会議、 コーディネーターの運用、 地域連携講演会、小郡三井地区医療介護連携 会議	52名 医療福祉専門学校緑生館、アカ デミー看護専門学校、高尾看護専門 学校
	21	田主丸中央病院 (H24. 7. 27)	一般178 療養72 精神93	(公財)日本医療機能評価 機構 初回認定日:1999.1.25/ 機能種別版評価項目3rd G:ver1.0取得(2014.8.1)	1. ホームページ:当院の概要、研修会等の案内と実施 2. 広報誌:患者向け4回/年、登録医向け3回/年	とびうめネット、浮羽医師会多職種連携システムの 活用	退院調整部門専従保健師を1名配置し、各病棟担当の相談員(MSW、 PSW)、退院調整看護師と連携。退院支援・退院調整マニュアルに 沿って支援している。	久留米医師会及び浮羽医師会の関係医療機関とともに「大脳骨 髄骨骨折バス」、「がん連携バス」、「脳卒中連携バス」に参加	院内・職員に対して各会議での周知と活用推進 院外:各バスの連携会議に出席、転院時・退院時 に関係者へ通知	94名 精華女子高等学校、麻生看護大学 校、福岡県施設病院協会看護学校
	22	公立八女総合病院 (H26. 12. 5)	一般300	平成30年12月受診予定	院外の関係者に向けての研修の開催に関する情報等は、その内容によ り、八女筑後医師会及び柳川山門医師会東部支部、関係医療機関 や消防署宛にFAXによる案内を行っている。また、必要により、郵送に よる配布、医療機関を訪問しての配付も行っている。	八女筑後医療情報ネットワーク(IDリンク)を活用 し、連携医療のために必要な診療情報を共有する ことで、地域における継続性の高い医療の提供に 努めている。	各病棟に退院支援職員を専任で配置し、入院早期に患者の状況を把握 し、退院困難な要因を有している患者を抽出している。患者・家族と 退院後の生活について話し合いを行い、退院支援計画を作成してい る。退院が決まった地域の医療機関、ケアマネージャーなどへ退院 後の在宅での療養に必要な説明・指導を行っている。	八女筑後医師会及び関係医療機関とともに「がん地域連携クリ ティカルパス」を策定し、かかりつけ医との連携を行っている。	八女筑後医師会に医療機関より問い合わせがあ った場合、当該クリティカルパスの概要を説明をして いただいている。連携医療機関が新規で「がん地 域連携クリティカルパス」の適用になる場合は、直 接連携医療機関に出向き、運用の説明を行って いる。	728名 八女筑後看護専門学校、城北高 校、杉森高校、福岡看護専門学 校、緑生館総合看護科
八女 筑後 (2病院)	23	筑後市立病院 (H30. 4. 1)	一般231 感染2	(公財)日本医療機能評価 機構(病院機能評価) 3rdG:ver1.0(2017年1月 4日更新)	①広報誌「いずみ」:年に4回発行(季節号)、1回あたり1,800部発行。外 来・救急外来の待合および病棟に設置し、患者さんが自由に持って帰 れるようにしているほか、地域の医療機関、行政機関、地域コミュニ ティ等への郵送を行っている。市民の生活に役立つ情報を意識したコ ンテンツ充実させている。その1つである「医療ネットワーク」では連携医療 機関のご紹介を毎号2施設ずつ行っている。 ②ホームページ:2017年4月1日にリニューアル。「誰もが簡単に必要な 情報を得られるホームページ」をコンセプトにアクセシビリティの充実を 目指している。	ID-LINK、とびうめネット(検討中)	・担当部署:地域医療支援室 ・人員構成:看護師2名、社会福祉士6名、事務職2名 ・業務内容:機能・退院調整、各病棟の退院支援担当(専任配置)、患 者窓口相談、外部との医療連携窓口、紹介状・送付管理 ・急性期病棟(3病棟)、包括ケア病棟(1病棟)それぞれに社会福祉士1 名を配置している。社会福祉士は、入院当日もしくは翌日に、病棟か ら提出される退院支援スクリーニングシートを参考に支援の必要な患 者の状態を把握し、患者・家族へ挨拶に伺うなど早期からの介入に努 めている。その中で家族との連絡を密に取り、患者や家族の意向	大脳骨髄骨骨折地域連携クリティカルパス 連携医療機関数:回復期5、維持期9 業務内容:機能・退院調整、各病棟の退院支援担当(専任配置)、患 者窓口相談、外部との医療連携窓口、紹介状・送付管理 ・急性期病棟(3病棟)、包括ケア病棟(1病棟)それぞれに社会福祉士1 名を配置している。社会福祉士は、入院当日もしくは翌日に、病棟か ら提出される退院支援スクリーニングシートを参考に支援の必要な患 者の状態を把握し、患者・家族へ挨拶に伺うなど早期からの介入に努 めている。その中で家族との連絡を密に取り、患者や家族の意向	大脳骨髄骨骨折の紹介を多くいただいている医療 機関に対しては、定期的に行っている医療機関訪 問の際に地域連携バスについて説明・案内し、地 域連携バスへの参画を促している。	81名 八女筑後看護専門学校
有明 (1病院)	24	大牟田市立病院 (H24. 7. 27)	一般350	(公財)日本医療機能評価 機構による機能種別 版評価項目一般病院 (3rdG:ver1.0)取得(平 成26年3月7日)	当院ホームページにおいて、開放病床や各研修会の案内、地域医療連 携業務に関するパンフレット、地域医療連携システム等の案内を行って いる。他にも院外の医療・福祉関係者が参加できる研修会等の案内 は、その度ごとに開催文書を郵送して案内をしている。院外向け広報誌 (患者さんや地域の方対象)の「たからざか」は、年6回発行し、新任医 師・各部署の紹介を始め、イベントの案内、疾患の話題をシリーズで行 うなど、その時期に沿った情報提供をしている。また、図書館を新しく整 備し、文献検索などを充実させ、共同利用を推進している。 紹介・逆	当院は、地域医療連携システム(愛称:ありあけ ネット)を導入し、同意が得られた患者さんに限り、 当院の電子カルテ(診療情報)を、地域の登録医療 機関との間で安全に保護されたインターネット回線 を介して参照するシステムを整備しており、情報共 有や診療の質向上に努めている。また、当院は福 岡県医師会や大牟田医師会が取り組みをして いる「とびうめネット」の緊急時紹介先医療機関としての 役割を担い、迅速で適切な医療を提供するための ネットワークに参画している。	地域医療連携室に退院調整部門を設けており、各病棟に退院支援担 当者を配置している。看護師や医療ソーシャルワーカー(社会福祉士) が、患者さんやご家族との面談を通して、今後の療養に対する希望を 伺い、院内スタッフ・院外関係者と連携し、転院・転所調整や在宅療養 などへ支援を行っている。	①がん地域連携クリティカルパス 大脳がん、胃がん、肺がん、乳がん、肝臓がん・前立腺がんの、がん 種別にかん診療連携拠点病院と各市区医師会で作成された福岡 県統一バスの活用促進を行っている。当院は、バスの発行や 運用管理を行う基幹病院として、地域医療機関と連携し、がん医 療の均てん化に努めている。 ②大牟田大脳骨近位部骨折地域連携バス 平成24年1月より運用を開始し、当院を管理病院として4医療機関 と連携している。平成29年9月より1医療機関が連携病院として加 わった。代表者会議を2回/年、実行委員会を1回/年開催し、	①がん地域連携バス 地域での利用促進・拡大を図るため、地域医療機 関の先生方に対する運用の説明会の開催や、当 院のホームページにおいて概要を案内し普及に努 めている。連携医療機関として届け出がない医療 機関に対しては、新規バス利用対象の患者さんを 紹介するとき、当院スタッフが訪問し、がん地域 連携バスの説明を行い、必要に応じて連携医療機 関としての届け出などの支援をしており、普及・促 進をしている。 ②大牟田大脳骨近位部骨折地域連携バス 今後も連携医療機関数を増やし、地域完結型医療 の実現を目指して継続した取り組みを行う	382名 大牟田医師会看護専門学校、帝京 大学、杉森高等学校、国際医療福 祉大学大学院助産学、九州看護福 祉大学、
飯塚 (1病院)	25	飯塚病院 (H17. 4. 1)	一般978 精神70	日本能率協会 審査登 録センター(ISO9001、 14001)2018年3月20日 更新(有効期間/9001: 2019年4月9日、14001: 2019年3月22日)	ホームページや広報誌を活用して、院外の関係者に向けて当院の診療 実績や研修開催情報を周知している。 また、研修開催案内は各医療機関に対し、開催案内等を郵送して情報 発信している。	とびうめネットの登録を行っている。	患者・家族等の生活と疾病や障害の状況から退院に伴い生ずる心理 的・社会的問題の予防や早期の対応を行うため、これらの諸問題を予 測し、専門的知識を用いながら、退院後の選択肢の説明や相談を行 う。地域における在宅サービスと院内のスタッフが、多職種連携の チームで行えるよう連絡調整を行っている。	福岡県医師会及び関係医療機関とともに「がん地域連携クリテ ィカルパス」を策定し、がん拠点病院である当院及び九州がんセ ンターを基幹病院として、がん拠点病院以外の医療機関とも連携 し、がん医療の均てん化を図っている。	大脳骨髄骨骨折バスと脳卒中バスについて、年3 回地域連携バス研究会を実施し、関係施設と連携 を図っている。また、脳卒中の連携バスについては 医療機関とメール等を使って情報共有を図ってい る。	787名 福岡県立大学、日本赤十字九州 国際看護大学、近畿大学附属福岡高 等学校、麻生看護大学、飯塚医 師会看護高等専修学校、博多高等 学校

田川 (1病院)	26	社会保険田川病院 (H26.12.5)	一般300 療養35	(公財)日本医療機能評価機構機能種別評価項目3rdG・Ver.1.1 (2016.9.17～2021.9.16) ①2ヶ月に1回発行している広報紙「あおぞら」と病院ホームページにて、医療関係者ならびに患者に対して医療情報、健康情報、研修情報などを情報発信している。地域の医療機関、介護施設、公的機関等へは郵送し、患者には病院ロービーにて配布している。 ②一斉FAX機能を使い、診療案内(診察医、診察日の変更等あればその都度)や公開講座開催案内等を地域医療機関に送信している。 ③従来より専門知識をもつ当院職員を病院外(福岡県立大学、医療機関、介護施設、企業等)に派遣し様々な情報を発信している。新たに平成29年8月からは「認定	当院が保有する高額医療機器の共同利用促進のため、ICTを用いた画像ネットワークを導入している。CT、MRI、骨密度測定、超音波検査、内視鏡検査(胃・大腸)の検査予約、放射線読影医師のレポート並びに画像送信を行っている。また、福岡県においても出来る限り対応している。また、福岡県と医師会が構築した地域医療ネットワーク(とびうめネット)を田川医師会と連携し院内設置済み。	①看護師と病棟担当ソーシャルワーカーにて、入院当初から退院に向けた支援をし、退院前の不安の解消に努めている。地域医療機関、介護施設、在宅サービス事業所等との連絡調整を行い、退院後の生活も見据えた最適な療養生活となるよう運用している。 ②平成29年2月より地域医療支援センターを開設。地域医療連携室、医療相談室、病棟管理室、入院対応室、患者相談等の各部門を一か所に統合して運営している。入院から退院・在宅まで一貫した運用ができ地域包括ケアを見据えた医療連携が推進されることを目的としている。	・地域共通のクリティカルパスではないが、地域医療機関ならびに医師会等の意見を聞き、共用できるクリティカルパスを策定し運用している。 ①大腿骨頸部骨折クリティカルパス ②脳卒中地域連携クリティカルパス ・地域がん診療連携拠点病院として福岡県がん診療連携協議会、福岡県医師会と協同で福岡県統一の地域連携クリティカルパスを策定し運用している。 ①がんの地域連携クリティカルパス(胃がん(ステージⅠ・ステージⅡ/Ⅲ)、大腸がん(ステージⅠ・ステージⅡ/Ⅲ)、肺がん、乳がん、肝がん、前立腺がん)	・当院における地域連携クリティカルパスは順調に運用できている。登録医療機関の実務者会議も定期的に開催し、情報の共有を図っている(現在24施設)。 ・田川医療圏では地域連携クリティカルパスを策定しているのは当院のみである。 ・登録においては、田川医療圏外の医療機関も参加している。 ・がんの連携パスに関しては二次医療圏内での説明会等を行っている。	186名 福岡県立大学看護学部、筑豊看護専門学校、九州医療スポーツ専門学校、遠賀中央看護助産学校
	27	小倉記念病院 (17.4.1)	一般658	平成30年9月に病院機能評価受審予定 当院ホームページ又は、直接訪問などで各診療科の取り扱う主な疾患、特色・専門分野等の情報を院外に向けて発信している。また、研修の開催に関する情報を登録医療機関等に郵送やFAXなどの方法で周知を行っている。	とびうめネットに登録している	入院中から病棟や関連部署との早期介入で患者さんの今後の療養の方向性を捉え、退院・転院・在宅支援を含めた、医療機関や地域支援担当者との連携調整を行っている。	北九州市医師会や関係大学病院、地域の医療機関で運用している北九州脳卒中・大腿骨近位部骨折地域連携バスと、北九州市医師会や地域の医療機関で運用している北九州循環器疾患地域連携バスを策定し、地域における包括的な疾患管理を行っている。	医師会を通じての運用説明会や、協議会参加。 シートの見直し提案。	393名 北九州小倉看護専門学校、日本赤十字九州国際看護大学、西南女学院大学、国際医療福祉大学、山口大学
北九州 (11病院)	28	製鉄記念八幡病院 (H17.4.1)	一般453	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別評価項目(一般病院2/3rdG・Ver.1.1取得H30年3月)(緩和ケア病院2/3rdG・Ver.1.1取得H30年3月) 1ホームページ、フェイスブック 2広報誌「こんにちはせいてつ病院です」4回/年発行(4,500部/回) 3連携室より登録医向け 毎月 4せいてつ病院健康講座 市民向け 3回/年 5地域医療従事者研修会 医療従事者対象 毎月 6出前講座 地域方々や企業向け 47回/年	地域医療連携システム「SMILE」を開発し、登録医療機関と情報を共有することで、効率的で質の高い医療の提供に努めている。	患者・家族が安全で安心な生活が送れるよう、患者・家族の意向を尊重しながら自立支援できるよう患者相談窓口として、医療相談室を設置している。 国家資格である社会福祉士を有するソーシャルワーカーや退院調整専任看護師が、療養中の心理的・社会的問題の解決、調整援助、退院援助、社会復帰援助、受診・受療援助、経済問題への調整介入、医療安全に関する相談援助、苦情相談等多岐に渡る内容に対して専門的な立場で支援している。	北九州地区の病院と連携し、北九州地域連携バス(脳卒中、大腿骨近位部骨折)を運用している。	脳卒中、大腿骨近位部骨折の連携バスの運用に関しては、北九州地域連携協議会に参加し、研修や意見交換により情報共有しながら各医療機関との連携強化を図っている。	173名 八幡医師会看護専門学校、西南女学院大学、福岡県看護協会
	29	戸畑共立病院 (H17.4.1)	一般218	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別評価項目:3rdG Ver.1.1 (平成30年1月29～30日) 広報誌(年4回発行)やインターネットを使用して、新任の医師紹介や最新の医療機器を紹介している。 毎月連携室便りを中旬に発行している。(研修の案内、外来診療案内、医師不在表など)	地域の医療機関と「医療ネット共愛会」を使って情報交換を行い、地域における継続性の高い医療を提供している。 福岡県医師会診療情報ネット「とびうめネット」の受け入れ病院として、患者さまを受け入れ在宅医療のサポートを行っている。 地域の医療機関を紹介できるよう、リーフレットを作成し、患者様が手に取れるように地域連携室前に設置している。また、北九州市の地図に連携病院を入れてわかりやすく患者様に提供をしている。	地域連携室に退院調整看護師を3名配置し、前方(入院調整)の看護師より、入院時の患者の情報をMSWと受け、早期介入を行っている。また、医師、病棟毎のMSWと病棟調整看護師、理学療法士とともに他職種が関わり、1週間に1～2回カンファレンスや面談を行い、退院の方向性を決定し患者が安心して療養して頂けるように援助を行っている。退院前訪問、退院後訪問を行い在宅で安心して生活できるよう支援している。 地域の居宅事業所や訪問看護ステーションと研修会で交流を深め、情報共有を行っている。 がんの患者様の入院調整は、がん相	北九州地域連携バス(脳卒中、頸部骨折)を使用し、計画病院として維持期、回復期病院と連携をとり、患者情報を共有し、医療の質の向上に努めている。また、年3回連携病院を訪問し情報共有を行っている。 がんの地域連携バス(胃・大腸・肺・乳がん・肝がん・前立腺がん)を使用し、患者様が地域で安心して医療を受けることができるように地域の連携病院と、がん医療の均てん化に努めている。	脳卒中・頸部骨折のバス運用については、北九州地域連携協議会に出席し情報共有を行い、院内に協議会の内容を発信している。 がん地域連携バスの新規の連携病院には訪問し、運用の説明を行い患者様が地域で安心して療養できるような情報交換を行っている。 地域連携バスの使用率、バス使用の在院日数を院内での各種会議で報告を行い、院内での普及に努めている。	132名 北九州戸畑看護専門学校、折尾愛真高等学校、美萩野女子高等学校
	30	独立行政法人地域医療機能推進機構九州病院 (H19.4.19)	一般575	平成26年8月(公財)日本医療機能評価機構受審済 ・紹介医療機関、かかりつけ医へ患者の「受診」「入院」「退院」「死亡」のお知らせをタイムリーに実施している。 ・ホームページで、地域の医療従事者や在宅医療・在宅養護関係者へ研修開催に関する情報を発信している。 ・研修会ポスターをチラシとして登録医や地域住民、調剤薬局、区役所へ配付し周知に努めている。 ・「連携のかけ橋」という医療機関向け情報誌を1回/月発行している。 診療のトピックスやチーム活動内容、休診情報、研修会のお知らせ等を掲載している。 ・「診療情報誌」1回/年、「メディカルナウ」という広報誌を4回/	・インターネット回線を利用し、連携医療機関へCT、MRI検査の検査予約とそれに伴う画像情報と読影診断情報を提供している。 ・きしのうらネット運用⇒患者の同意のもと、かかりつけ医がインターネット回線を利用して、当院の電子カルテの一部を閲覧することで診療情報の提供がタイムリーに行える。 ・とびうめネットの運用(福岡医師会診療情報ネットワーク)⇒患者の希望を確認し、かかりつけ医があるから始め、患者情報をアップし、急性期病院(当院)受診の際、権限の付与された医師が閲覧でき、かかりつけ医の確認も行え、患者情報を得ること	医療支援部にMSW、看護師、事務員を配置し、多職種で退院調整を担当している。 入院患者全員に入院後24時間以内(急患入院:48時間以内)に退院支援のスクリーニングを行い、必要な患者へ7日以内のカンファレンス等、早期介入を行っている。 各病棟に退院調整看護師、MSWの担当者を決め、患者の状況に応じて対応できるようにしている。 地域との連携強化のため病院訪問の実施、在宅のサービス利用のある患者さんのケアマネージャーへの連絡や退院前カンファレンス、ケースカンファレンスの実施、在宅関連の研修会へ積極的に参加している	①大腿骨近位部骨折、②脳卒中、③胃がん、④大腸がん、⑤肺がん、⑥乳がん、⑦肝がん、⑧前立腺がん	地域関係者との定例会議に参加している。がんの地域連携クリティカルパスに関しては、新規登録の医療機関へは説明用の用紙を郵送し、必要時、訪問して説明を行っている。	769名 西南女学院大学、福岡県立大学、日本赤十字九州国際看護大学、九州看護福祉大学、福岡水巻看護助産学校、八幡医師会看護専門学校、原看護専門学校、久留米大学、国際医療福祉大学、福岡県看護協会
31	独立行政法人国立病院機構小倉医療センター (H20.4.1)	一般350 精神50	2020年2月(公財)日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審予定 毎月、メール便にて600程度の医療機関等へ、院内広報誌(鶴(かもめ)を四半期に1度発行)や、院外関係者向けの研修案内、春ヶ丘健康宅配便の案内等、さまざまな情報を発信している。	画像情報システム(CaRna)を使い、24時間365日画像検査の予約が可能となっている。(平成30年5月よりとびうめネットの運用を開始した。)	地域医療連携室に退院調整部門があり、SW4名、看護師3名が担当を決めて病棟を受け持ち、スムーズな退院ができるように調整を行っている。	当院は、脳疾患関係の診療科が無いため、脳卒中バスは行っていない。また、大腿骨バスは整形外科の医師異動により専門分野が変更となったため今後検討していきたいと考えている。	バスの運用ではないが、下記の取組を実施している。 ・平成21年より全国で初めて周産期医療特化型医師搬送用ドクターカーを運用。開業医で出生した新生児の急変対応に際し、小児科医を緊急的に派遣している。 ・また、近隣産婦人科開業医での新生児健診のため、小児科医を派遣し密な連携体制を築いている。 ・精神科を有する地域周産期母子医療センターとして、精神疾患合併妊産婦の妊婦・分娩管理を実施しており、院内連携のみならず、地域社会(保健師等の自治体担当者)との連携も積極的に実施している。	8,801名 西南女学院大学、専門学校北九州看護大学、遠賀中央看護助産学校、福岡女学院看護大学、北九州戸畑看護専門学校、北九州小倉看護専門学校、福岡看護専門学校、福岡水巻看護助産学校、福岡保健専門学校	

北九州 (11病院)	32	独立行政法人労働者健康福祉機構九州労災病院 (H21.4.1)	一般450	(公財)日本医療機能評価機構 機能種別評価版評価項目3rdG: Ver.1.0[一般病院2](平成25年11月1日)	診療連携広報誌の発行(年4回、送付先約700医療機関)、患者向け広報誌の発行(年4回+α(必要に応じ臨時発行)、1,500部/回)、ホームページの随時更新、連携医療機関を対象とした医療連携懇話会の実施(年1回)、京都医師会との合同症例検討会の実施(年1回)、市民公開講座の開催(年3回)、救急隊との座談会(年1回)	現在はまだ導入されていないが、将来的に導入する方向で検討中。	①退院の阻害因子を抱えた患者をできるだけ早期に発見し、介入・支援を行う。 ②患者・家族の主体的な参加を促し、満足のできる退院支援活動を行う。 ③地域との連携を円滑に行い、スムーズに退院支援を行う。 ④病棟やスタッフ間で統一した方法で退院支援ができるよう、退院支援活動に係る知識やシステムの啓蒙を行う。	大腿骨近位部骨折地域連携バス、脳卒中地域連携バス	北九州市大腿骨近位部骨折地域連携バス協議会(病院長が協議会の長に就任)への参画、北九州市脳卒中地域連携バス協議会への参画、医局会等での院内医師に向けた利用促進を依頼	133名 京都医師会看護高等専修学校、小倉看護専門学校、製鉄記念八幡看護専門学校、西南女学院大学、日本赤十字九州国際看護大学、福岡県立大学
	33	健和会大手町病院 (H21.4.1)	一般499	(公財)日本医療機能評価機構 機能種別評価版評価項目3rdG: Ver.2.0.2015年認定	ホームページや広報誌(隔月発行)により情報公開している。医療活動の取り組み内容をまとめ発表している医療活動交流集会の開催や医療活動をまとめた医報を発行している。当院の登録医理事と登録医合同運営会議を3ヶ月に1回開催し、活動内容等を含めた情報交換を行っている。	福岡県医師会診療情報ネットワーク参加	医療相談・医療福祉連携部に退院支援部門を設置しており、退院支援看護師2名・社会福祉士7名が退院支援にあたっている。緊急入院で複雑な問題(老々介護や独居等)を抱えている患者が多く事前の情報収集・支援等が困難なため、入院翌日に退院支援看護師が全患者の情報確認を行ない、支援の必要性を判断し早期に介入するよう努めている。また、病棟回診・カンファレンス等に参加し院内外多職種との情報交換を行い問題解決に努めている。医療以外の問題を抱える患者の紹介も多くあり、そのような場合は受け入れ時より退院支援看護師が関わること	胃瘻ボタン交換連携バス、脳卒中連携バス	各施設や医療機関との意見交換を行い、地域の医療機関の会議に参加している。	484名 健和看護学院、北九州市小倉看護専門学校、北九州市戸畑看護専門学校、製鉄記念八幡看護専門学校、ソフニエ看護専門学校
	34	北九州市立医療センター (H23.4.1)	一般620 感染症16	(公財)日本医療機能評価機構による病院機能評価(3rdG: Ver.1.1)の認定(平成30年8月3日)	ホームページ・Eメール・FAX・病院広報誌「輪」(年4回発行)・SNSを活用し、登録医や地域の医療機関に向けて、医療連携や地域の医療従事者を対象にした研修等に関する情報を発信している。毎年、「診療案内」を作成し、登録医や地域の医療機関等へ送付している。また、「近隣連携医療機関への訪問時にも、当該「診療案内」を配布している。患者・市民を対象に広報誌「こんにちは! ! 医療センターです」(随時発行)にて情報提供している。看護・助産学生、薬剤師・臨床検査技師の学生の受け入れを積極的におこなっている。	・地域医療の質の向上を図るため、地域医療連携ネットワーク「連携ネット北九州」を導入し、当院で受診した際の検査結果等を地域の医療機関とインターネットで共有している。今後も、地域医療機関等の意見を伺いながら、随時閲覧可能な内容等を拡張していく。 【高額医療機器の予約】CT検査、MRI検査、RI検査、X線撮影検査、骨密度検査、マンモグラフィ、腹部エコー、体表エコー、頸部血管エコー 【閲覧可能な内容】上記検査と内視鏡の画像・レポート、血液・生化学検査、処方箋(服薬・注射)、病理診断、細胞診断、退院時予約、看護要約	退院後も様々な生活ニーズや課題を持つ患者・家族に対して、適切な退院先を確保し、安定した療養生活を送っていただくために、医療連携室・相談室を設置し、ソーシャルワーカーと看護師が協力して、退院調整を行っている。	福岡県がん地域連携バス: 胃がん(7施設7件)、大腸がん(2施設2件) その他のクリティカルバス: 脳卒中(1件)	退院時にバスの利用を積極的に薦めているほか、計画的に地域の医療機関を訪問し協力を求めている。	357名 ・小倉看護専門学校、西南女学院大学、北九州小倉看護専門学校、北九州市立看護専門学校、門司区医師会看護高等専修学校、久留米大学、福岡県看護協会、国際医療福祉大学
	35	独立行政法人労働者健康福祉機構九州労災病院門司メディカルセンター (H24.7.27)	一般250	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別評価版評価項目3rdG: Ver.1.0取得(平成26年3月7日)	紹介患者に対する医療の提供、MRI、CTの医療機器の共同利用の実施、救急医療の提供、地域の医療従事者に対する研修をホームページに掲載し、地域の医療機関向けに「地域医療連携室だより」、情報誌「潮流」等を送付し、医療の質の向上等様々な情報発信を行っている。内科・外科・整形外科・放射線科の合同カンファレンス、また、救急搬送1,000件以上に向け、救急隊との事例検討会も実施している。	福岡県医師会診療情報ネットワーク(とびうめネット)に参加しており、開業医の主治医が不在の時でも救急隊から搬送された患者さんの情報を得ている。	平成29年5月に入院支援センターを開設。退院前カンファレンス、ケアマネジャーへの情報提供、退院先医療機関の紹介、調整に加え、入院前より患者さんの情報収集を行い、退院支援・退院調整を入院時期より開始している。	脳卒中地域連携バス(使用開始は30年6月)	「地域連携バス協議会」に参加し、情報共有しながら各医療機関との連携強化を図っている。	1,024名 門司区医師会看護高等専修学校、北九州市戸畑看護専門学校
	36	遠賀中間医師会おんが病院 (H24.7.27)	一般100	(公財)日本医療機能評価機構による評価を2020年度に受審する予定	院外の関係者に向けた研修、消化器カンファレンスや糖尿病カンファレンス、画像カンファレンスなどの開催情報や地域患者さん向けの糖尿病教室などの研修開催情報 開放型病院として登録医などとの連携情報(患者さん紹介や転院、医療情報提供など、病院情報の提供) 他病院・クリニック等向けへの検査依頼・結果確認方法などの情報 在宅支援として24時間対応可能な訪問診療の提供や在宅医療内容、訪問リハビリ、訪問薬剤、訪問栄養内容 病児・病後児の受け入れを積極的に行っている 看護学校実習生の受け入れを積極的に行っている 手術件数、	福岡県医師会診療情報ネットワークの「とびうめネット」へ参加	退院後の患者・家族の課題に対して安定した療養生活を送れるように、地域医療連携室に退院調整部門を設けており、MSWや看護師が協力し、入院時から患者及び生活環境等の情報把握を行い、必要に応じて訪問診療、往診や訪問看護、訪問リハ等の在宅サービスを調整している。また、看護師による退院後の訪問指導を対象患者に行っている。	福岡県医師会のがん地域連携バス: 胃癌、大腸癌	医師会及び地域クリニックへ訪問がん連携拠点病院への情報提供等	100名 遠賀中間医師会遠賀中央看護助産学校
37	北九州市立八幡病院 (H30.4.1)	一般439	—	ホームページ・FAX・診療案内・病院広報誌・医療連携会・医療機関訪問により、登録医や地域医療機関等に診療内容や研修会等に関する情報を発信している。また、市民を対象にした病院広報誌や市民公開講座開催により情報を提供している。	とびうめネットの活用により緊急入院患者のかかりつけ医と診療情報を共有し、効果的な診療提供を図っている。	医療連携室に退院調整部門を設置し、患者・家族が退院後も安心して療養生活が送れるように医療連携室担当看護師及び社会福祉士が入院早期から患者・家族に面談し退院支援・調整を実施している。	脳卒中地域連携バス(北九州標準モデル)6施設17件 大腿骨近位部骨折地域連携バス(北九州標準モデル)3施設21件	関連医療機関に連携クリティカルバスの概要を説明するとともに、周知を図っている。	249名 八幡医師会看護専門学校、美萩野女子高等学校、西南女学院大学、福岡保健・スポーツ専門学校	
京葉 (1病院)	38	新行橋病院 (H22.4.1)	一般246	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別評価版評価項目2ndG: Ver.5.0(平成21年9月27日取得)、3rdG: Ver.1.0(平成26年8月取得)	本病院のホームページにおいて、院外の関係者に向けて研修の開催に関する情報を周知している。広報誌(年4回)、連携室便り(年2回)を各病院等へ配布するなどし、診療所と情報を共有するよう努めている。	とびうめネット、メディックNETを用いた病診連携。	主に医療連携室が看護部と連携を図り、退院先や退院後の相談を受け調整している。	脳卒中地域連携バス	地域の病院やクリニックへ訪問し、連携への協力を促している。	147名 京都医師会看護高等専修学校、豊前築上医師会看護高等専修学校、美萩野女子高等学校、福岡水巻看護助産学校、下関看護リハビリテーション学校、福岡看護専門学校